



主要な農作物の生育情報

平成22年度 第9号
(平成22年12月 8日)
福島県農林水産部研究技術室



【野菜】

1 イチゴ

伊達地方及び須賀川地方の促成栽培（夜冷育苗）では、花芽分化の遅れが影響し前年比7～10日程度遅れ、11月中旬からの出荷開始となっています。促成栽培（ポット育苗）においても花芽分化遅れが影響し、前年比5～7日程度生育が遅れ、収穫開始は12月上旬となっています。

病害虫ではうどんこ病、コナジラミ類の発生が見られます。

2 ニラ

県北地方の2年株は、現在、3番刈りの収穫中です。株養成期の高温・乾燥の影響で葉幅がやや狭い傾向にあります。1年株は12月上旬より順次被覆が開始されています。

病害虫は一部のほ場で白斑葉枯病やネダニ類の発生が見られます。

須賀川地方では、高温・乾燥の影響で葉幅がやや狭い傾向にあります。2年株は昨年度より3日程度遅れて11月上旬から収穫が開始されています。1年株の被覆は11月中旬～下旬となっています。

病害では、白斑葉枯病が散見され、さび病の発生は少ない傾向にあります。

3 秋冬どりブロッコリー

相双地方での収穫盛期は、11月下旬からとなりました。定植時の高温・乾燥で活着がばらついた影響から生育にばらつきが見られます。出荷は1月末まで続く見込みです。

4 シュンギク

伊達地方のハウス栽培は、気温が高く推移しているため生育は早まっています。

露地栽培は、ほぼ収穫が終了しています。

【果樹】

1 リンゴ

農業総合センター果樹研究所（以下、果樹研究所という）における「ふじ」の収穫始めは11月19日で平年より6日遅く、収穫盛りは11月23日で平年より8日遅れました。果実の大きさは328gと平年より小さく、糖度は15.8度と平年よりやや高い状況でした。

果樹研究所における花芽分化率は、「つがる」が56.6%（平年比73%）と平年より低く、「ふじ」は67.3%（平年比94%）と平年よりやや低い状況ですが、必要量は確保されています。

2 ナシ

果樹研究所における花芽分化率（予備枝新梢のえき花芽分化率）は、「幸水」が70.9%（平年比128%）、「豊水」が78.4%（平年比113%）と平年より高い状況となっています。

【花 き】

1 シクラメン

須賀川・県南・いわき地方では、12月出荷用鉢物が出荷の終盤を迎えており、仕上げの葉組み作業や肥培管理による生育調整が行われています。

出荷は4～5寸鉢で8割程度、6寸鉢では7割程度終了しています。

2 ストック

会津地方の年末～1月出荷の作型では、8～9月上旬の高温の影響で育苗が遅れたため、開花が2週間程遅くなっています。出荷盛期は12月中旬になる見込みです。

病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報（ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>）等を活用し、適切に対応してください。

発行：福島県農林水産部研究技術室 TEL(024)521-7336

<http://www.pref.fukushima.jp/keieishien/kenkyukaihatu/gijyutsufukyuu/seiikugijyutsujyohou.html>